

第5回熊谷市総合戦略有識者会議

2017. 2. 20

■議事（意見交換）

発言者	発言要旨
事務局	熊谷市の現状と総合戦略の取組状況について、資料1・資料2に沿って、将来推計人口と総合戦略の基本目標別KPI（平成28年度）の進捗見込および人口動態・合計特殊出生率を説明。
委員長	平成31年度KPIとして出生数1,400人／年を設定しているが、平成28年度の見込として1,384人となっている。この数値をなんとか上昇させる必要があると考えている。また、教育環境の充実についてはKPIを数値的に満たしている部分もあり、ある程度施策の効果があつたと考えられる。
委員	KPIというものは「目標設定」であり、「課題」の分析・精査が必要不可欠となっているのではないかと。例えば、市民生活満足度調査結果で平成31年度のKPI「続けて住みたい」60%を掲げている一方、平成28年度見込では47.80%となっている。「続けて住みたくない理由」をはっきりと把握することで課題解決に寄与するのではないかと。
事務局	続いて平成29年度当初予算の主要事業に関する説明、地方創生を推進する包括的協定を結んだ地元金融機関との連携を報告。その他、地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金、企業版ふるさと納税、同窓会開催支援等を説明。
委員	P8の事業35「通学路交通安全対策事業」はグリーンベルトの整備等に関する事業だと認識しているが、それに加え、交通安全を目的とした警察の取締強化もお願いしたい。
委員長	警察との協議が必要な案件については、連携して進めていく。
委員	事業37「小学校・中学校トイレ整備事業」について、昨今の洋式トイレが使われる傾向を否定はしないが、和式トイレでしゃがむことで体幹がおのずと鍛えられたと考えており、子どもの体力衰退対策も同時に行って欲しい。
委員長	和式トイレを使用することを子供たちが嫌がる傾向にある。熊谷市では、学力と体力づくりの双方において高い水準を目指しており、子どもの体力衰退を改善したいと考えている。
委員	P2の「一般会計歳入歳出予算款別比較表」に記載されている歳入の「14国庫支出金」「18繰入金」が増加している。歳出では、「3民生費」「8土木費」が増えている中、「4衛生費」「10教育費」が大幅に減っている。この状況について教えて頂きたい。
事務局	歳入のうち、「14国庫支出金」の増加に関しては、国の政策によるもので、「臨時福祉給付金事業」「保育所整備・運営経費」が主な要因である。「18繰入金」の増加に関しては、歳出・歳入の調整によるものである。歳出のうち、「3民生費」の増加に関しては、「臨時福祉給付金事業」「保育所整備・運営経費」「国民健康保険特別会計の繰り出し」などによって起因されたものである。「8土木費」が増えた理由としては、ラグビーワールドカップに向けたアクセス道路の整備、生活道路の整備、水路の改修などが挙げられる。区画整理事業に向けた特別会計の繰り出しも要因の1つである。「7商工費」の増加については、プレミアム付き商品券の発行等によるものである。「4衛生費」が大幅減になっているのは、「大里広域市町村圏組合」の「衛生センター改修」にかか

	る市の工事負担金がなくなることに起因する。「10 教育費」が減少となっているのは、市内の小中学校体育館の耐震化が終了する見込のためである。
委員	帳尻を合わせることができる「18 繰入金」とはどこから拠出されるものか。
事務局	基金として確保していた財源のことを指す。
委員	商工振興について尋ねたい。RESAS や経済センサス等によって中小企業の実態を把握する必要があるのではないか。また、ラグビーを通じて賑わいを作るためには、星川通りに至るファンゾーンの整備が必要と考えている。産業のイノベーションによって人口減少を克服できるという研究結果もあるため、市には、その方針となるものを提示して頂きたい。
事務局	ラグビーワールドカップ開催に向け、駅の北口 3 箇所に wi-fi 施設を設けた。来年度は星川にも wi-fi を設ける予定であり、ファンゾーンまで歩かせる仕組みを設計したい。
委員	立正大学については熊谷キャンパスからの撤退がよく話題に挙がるが、決して撤退することは考えられていない。女子高生によるラグビー全国大会「立正大学カップ」も開催しており、熊谷は女子ラグビーのメッカになっている。東京オリンピックに向けて、立正大学に入学希望する女子ラグビー選手も増えており、現在では近隣デパートとの協力により、女子ラグビー選手の就職斡旋もできている。就職先では、ラグビーの練習を行えるよう産学連携が構築されている。
委員	同窓会の支援策について、市の HP に同窓会用の飲食店情報を記載することは良いと思うが、「食ブログ」など既存の情報ツールとバッティングするのではないか。その代わりに、学会を行う団体へ支援金拠出を行える制度を検討してはどうか。
委員	現在の熊谷の現状を把握できるイベントと同窓会をセットにしてはどうか。
事務局	続いて、現行の最上位計画である第 1 次総合振興計画と平成 30 年度より施行予定の第 2 次総合振興計画案との違いを説明。また、第 2 次総合振興計画の 7 つの政策と各施策およびリーディングプロジェクトを紹介。
委員	政策 4「人が集い活力ある産業が育つまち」とあるが、現状の熊谷のまちの方向性が見えてこない状況である。そのため、何かテーマを持った駅前開発をして頂きたい。
委員	昨年 12 月から熊谷市の地区有効求人倍率が 1.57 倍、新規の有効求人倍率に関しては 2.19 倍と働き手が不足している状況である。産業の維持すらできない状況であり、「熊谷＝働く場所」と PR する必要があるのではないか。
事務局	今後のスケジュールは、本日の意見交換を反映させ、来年度 6 月下旬に第 6 回有識者会議を開催し、総合振興計画骨子案について審議いただきたいと考えている。御協力をお願いしたい。